

## 令和5年6月定例会 一般質問（概要）

令和5年6月7日（水）  
質問者：橋本 ゆうと議員



大阪維新の会、大阪府議会議員団、大阪市福島区・此花区選出の、橋本ゆうとでございます。本日は、一般質問の機会を頂戴しまして、関係者の皆様には心より感謝申し上げます。それでは通告に従って質問をさせていただきます。

### 1 副首都・大阪の実現

国内外から多くの人や投資を惹きつける副首都・大阪の実現に向けて

まず、はじめに、国内外から多くの人や投資を惹きつける「副首都・大阪

の実現」に向けてお伺いいたします。

3月に改定された副首都ビジョンでは、副首都・大阪の実現に向け、国内外から多くの人を集め、そうした多様な人材の交流からスタートアップやイノベーションの創出、これにつなげていくために、フレンドリー・エネルギーシユといった大阪人氣質を大きな力にしていくという方向性が示されております。

確かに、人材の多様性がイノベーションの創出、ひいては大阪の成長にも寄与する、その土壌として、大阪は人情的な街だと思いますが、大阪は誰でもフレンドリーに話す人が多い一方で、寛容性のランキングは東京のほうが上位というデータもございます。

また、副首都ビジョンでは、若者の多くが就職、そして進学を機に大阪から主に首都圏へ流出していることを課題の一つと捉えておりますが、東京は寛容性に優れ、経済規模が巨大である点から、現状、大阪から人が外に出ていくことはある意味致し方なく、まず、大阪としてやるべきことは、出ていく人を止めることよりも人を呼び込む魅力を作っていくことであると考えております。魅力が最大化でき、人を呼び込むことができれば人の流出も止めることができるでしょう。

「国内外からの多くの人や投資を惹きつける副首都・大阪」を実現していくために、どのような大阪人氣質を生かし、東京に並び立つ街にしていこ

## うと考えていらっしゃるのか、副首都推進局長の考えをお聞かせください。

(副首都推進局長答弁)

- 今回の副首都ビジョンの改定にあたっては、外から大阪がどうみえているかも含め、大阪・関西に加え、東京の有識者からも幅広く意見をいただきながら、検討を進めてきた。
- その中で、イノベーションの創出には、人材の流動性や多様性を育む高い寛容性が不可欠であり、大阪には、カオス、フレンドリーといった言葉に代表される寛容度の高い風土や、開放性、エネルギー感といった都市イメージがあるといった議論があった。
- 新たな副首都ビジョンでは、イノベーションの源泉となる、これらのおお阪人気質を生かし、これまでの府市一体の取組を土台に、さらに強固にしていくことで、東京とは異なる大阪の魅力を高めていくこととしている。
- そうすることで、国内の若者はもとより、国内の若者はもとより、海外からも多くの人や投資を惹きつけ、世界から選ばれる副首都・大阪の実現に向けしっかり取り組んでいく。

ありがとうございます。東京と並び立つ街を創造する、これは先ほど局長がおっしゃった通り、東京と同じような都市を作るのではなく、過去に例のない新たな価値を持つ都市・大阪を作るということで、大変希望を持つことができます。東京は出生率が大変低く、単身世帯比率がとても高い、今後急速に高齢化の進む懸念を持った都市構造になっております。大阪発祥である教育無償化等、次世代を慮る政策によって子育て世帯を呼び込むとともに、大阪・関西万博も契機として、東京と異なる魅力を持った大阪を、引き続き創っていかれるようお願い申し上げます。

## 2 2025 年大阪・関西万博の成功に向けて

### 万博での自動車交通の混雑対策及び混雑状況の周知方法について

次に、2025 年に開かれます大阪・関西万博における自動車交通の混雑対策についてお尋ねします。

私の地元であります、大阪市此花区において、2025 年大阪・関西万博が開催されることは非常に喜ばしいことでもあります。



一方で、万博会場へのアクセスについて、パネルに示します通り、主要駅からのシャトルバスや会場外に整備される舞洲駐車場に向かう自家用車などの交通が、阪神高速を降りてから此花大橋、そして舞洲東交差点を通るルートに集中することになるため、地元住民や企業の方々からは、万博会場周辺、そして、物流拠点の多い此花区内の道路が混雑し、物流事業者な

どの企業活動や社会活動に影響がでるのではないかという心配が数多く寄せられております。

博覧会協会では府市や関係者による来場者輸送対策協議会を設置し、先日 5 月 26 日には来場者輸送具体方針が改定されるなど、来場者輸送について検討が進められていると聞いております。ついては、万博開催期間中の舞洲周辺の道路交通の混雑について、どのような対策を進めていくこととしているのか、また、交通混雑の状況をどのように周知していくおつもりか、万博推進局長に伺います。

(万博推進局長答弁)

- 万博開催時の舞洲周辺における交通混雑対策については、議員お示しの具体方針において、シャトルバスなどの万博交通が物流などの一般交通に与える影響を最小化するよう、様々な対策を講じることとされている。
- まず渋滞対策として、此花大橋や夢舞大橋の4車線から6車線への拡幅に加えて、舞洲東交差点の立体交差化などに取り組んでいるところ。
- さらに交通円滑化対策として、チケットコントロールによる一日あたりの来場者数の平準化に加え、舞洲駐車場利用による一般道への影響に関して、当該駐車場の集中利用を避けるための尼崎・堺の駐車場料金の引き下げなどを進めていくこととしている。
- また、交通混雑に係る情報提供については、博覧会協会において、鉄道・バスや高速道路の混雑状況等を適宜発信するとともに、それらの混雑予測も行い、幅広く提供していくこととしている。
- 引き続き、来場者輸送対策協議会において議論を重ね、一般交通への影響を極力防ぎながら、万博会場へ安全・円滑に来場いただけるよう、しっかりと取り組んでいく。

私の地元である大阪市此花区の運送業・住民の方々から交通渋滞に関する

る心配の声はたくさん上がっています。一方で、万博推進局を始めとする関係者の皆様が、可能な限りの対策を講じてくださっていること、大変ありがたいと思っております。これらの取り組みがさらに周知されることで、心配する声が少しでも減っていくことを希望したいと思います。地元にも受け入れられる万博となることが、真の成功と言える、そのように考えております。地元のご心配の声を届けてまいりますことで、その実現に私もお力添えできればと思っております。

### 3 日本一の子育て・教育サービスの実現

#### ①府立学校における給食費無償化の実施について

ここからは日本一の子育て・教育サービスの実現に関して、3点質問いたします。

まず、府立学校の給食無償化にかかる制度構築についてです。

昨年度に引き続き、令和5年度も給食費が無償化されることは非常に喜ばしく、児童生徒や保護者も安心していることと存じます。しかし、来年度も物価高騰が続いた場合、無償化を実施できないとなると、保護者への影響が大きくなるため、府として恒久的に無償化を実施できるよう、就学奨励費の制度も活用しながら制度を構築することが必要と考えております。旧大阪市立中学校2校は、当面の間、給食費は無償となっており、他の府立

学校においても、国の財源を待って実施するのではなく、全国に先駆けて府として実施すべきと考えているのですが、教育長のお考えをお聞かせください。

(副首都推進局長答弁)

○ 大阪府としては、物価高騰に直面する保護者の負担を軽減するため、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、令和5年度の府立学校における学校給食費の無償化に向けて、2号補正予算案を計上しているところ。

○ 義務教育は国の責務であるとともに、学校給食法が制定された当時とは少子化の進展等状況も異なっていることから、給食費の負担のあり方について、まずは、国が検討すべきものとする。

○ 現在、国においては、学校給食費の無償化に向けた実態調査を実施し、給食実施率等の実態把握と課題の整理を行うこととしており、府としてはその動向を注視しながら、引き続き、国による財政措置がなされるよう要望するとともに、これらの状況を踏まえ検討してまいります。

当会派としては、給食費の無償化については、従前より要望しているところであり、まずは、大阪が全国に先駆けて無償化を実現すれば、少し遅れて国・他の自治体も追随してくるはずですが、政策的なご判断を、ぜひ、吉村知事にもお願い申し上げます。

## ②大阪公立大学等の府授業料等無償化制度について

次に、昨日、私たち大阪維新の会、金城克典代表からも知事にご質問がありました、大阪公立大学等の府授業料等無償化制度について質問いたします。先般5月9日に開催された大阪府戦略本部会議において、大阪公立

大学等の授業料等無償化制度をさらに拡充する基本的方向性(素案)が示されました。

現在の制度は所得制限等がありますが、今回の制度拡充では、所得や資産・世帯の子どもの人数に関係なく、授業料・入学料が無償化されるということで、学生にとっても、非常に良い制度であると考えております。

今後、当該制度について、さらに検討を進めるとのことですが、こうした制度が、府民や学生にとって、より効果的で、円滑に活用されるために、どのように取り組もうとしているのか。府民文化部長にお伺いします。

(府民文化部長答弁)

○ 大阪公立大学等の授業料等無償化制度については、大阪の全ての子どもたちが進学を諦めることなく、チャレンジできるよう、教育の完全無償化を実現するため、この度、所得制限等を撤廃し、制度拡充を進めることとしている。

○ そのため、新制度の導入にあたっては、学生の進路選択の時期に充分配慮するとともに、制度のわかりやすい周知や、申請手続等の円滑化が必要であると考えている。

○ こうしたことから、今後においては、制度を段階的に導入する趣旨や、対象となる学年など、新制度の内容について、周知時期や方法を検討するとともに、制度を活用するにあたっての具体的な申請手続を含む、学生へのサポートについて、大学法人と協議を重ねることとしている。

○ 大阪の全ての子どもたちが、所得や資産、世帯の子どもの人数に制限なく、自らの可能性を追求できるよう、新制度の円滑な活用に向けて、しっかりと取り組んでいく。

ありがとうございます。しっかりと取り組んでいただきますよう、よろしくをお願いいたします。ただ、制度を拡充するにあたり、現時点の素案では、



令和 6 年度については、医学部・獣医学部の大学 5 回生と同じ年齢である大学院 1 回生が、新制度の対象外となっております。私もそうでしたが、理工系の学生は学部 4 年間で基礎の習得、大学院 2 年間で専門の研究をする 6 年間のカリキュラムで構成されることが一般的で、大学入学時にすでに大学院進学まで決めている学生が多いと存じます。新制度については、段階的に実施していくということですが、進路の違いによって不公平感を感じることができる限りないように、府民が納得できる取り組みを進めていただきますよう、要望いたします。

### ③思考力を育成する取組みについて

それでは最後の質問です。子どもの考える力を育成するための、府内の公立小・中学校や府立高等学校における具体的取組みについて伺います。昨年度から高等学校においても本格実施されている新たな学習指導要領では、育成をめざす資質・能力について、小学校から高校まで一貫して、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の三つに明確化されています。知識偏重の学習から、知識を活用して答えが一つでない問いを他者と協働しながら考えていく学習への転換がより一層求められており、私自身は、とりわけ思考力の育成、これが重要であると

考えております。

また、先般発表された「第2次大阪府教育振興基本計画」においても、児童・生徒が自ら考え将来を生き抜く力を育成するという方針が校種を越えて一貫して打ち出されており、私自身も考える力、思考力の育成に大いに期待しているところです。

そこで府内の公立の小・中学校や府立高等学校において、思考力をどのように育成しようと考えているのか、具体的な取組みについて教育長にお伺いします。

(教育長答弁)

○ 変化が激しく、予測が困難な社会において、課題を解決するために必要な思考力を子どもたちにはぐくむことが重要であると認識している。これまでの各学力調査等の結果からも論理的思考力に課題があると分析しており、さまざまな取組みを進めているところ。

○ 小中学校においては、府教育庁として、様々な資料を読み取り、論理的に考えを表現することを目的に、「小学生すくすくウォッチ」において府独自に作成した教科横断型の問題を出題している。また、シンキングツールという、「比較する」「分類する」「関連づける」といった思考パターンを視覚的に整理した教材を、市町村教育委員会を通して各学校に示し、活用を促している。

○ 府立高校においては、全校で実施している総合的な探究の時間において、環境や福祉、国際理解や地域社会等をテーマに、生徒自ら課題を設定し、各方面から情報を集め、整理・分析等を行ったうえで、その課題の解決策を校内外で発表する活動を行っている。また、各教科の授業の中でも、例えば、1人1台端末を活用し、グループでディスカッションをしたり、単元で学習したことをレポートにまとめたりする活動を取り入れるなどの工夫により、思考力の育成を図っている。



ありがとうございます。本質問をするに際して、教育庁の皆様と議論を重ねてまいりました。そこで印象的だったのが、どのようにすると子どもたちが論理的思考力を身につけ、変化が激しく予測困難な社会を自分の力で生き抜けるようになるのか、ということと真剣に向き合っていること、新たなたくさんの試みを考えられておられることです。私教育が公教育よりも先を進んでいるという世の中のイメージが、ひょっとするとあるかもしれませんが、教育庁の皆さんが作られている大阪の教育は最先端を走っているのは間違いなく、大いに希望を抱くことができました。

今後は、子どもたちにとって最も捉えづらい、「考える」という行動はどういうことなのか。これをさらに突き詰められるとともに、子どもたちに

は自由に失敗をさせ、どこで失敗したのかを自ら検証する、いわゆるトライ  
アンドエラーの過程を重視させて欲しいと存じます。受験指導塾をはじめ、  
日本の教育現場では知識偏重・結果重視で、過去を網羅することは得意で  
あるが、自分の力で未来を作る経験をあまりしないまま大学生になる、社  
会に出る子どもたちが多く存在します。これを大阪府の取り組みによって  
変革することをお願い申し上げて、私の質問を終わらせていただきます。  
ご清聴ありがとうございました。